

5 まちづくりを実現するため

## 5 まちづくりを実現するために

### 5-1 協働のまちづくり

都市計画マスタープランでの将来の都市像は、市民、自治会等のコミュニティ組織、事業者・各種団体、行政が一体となって取り組み、協働で進めていくことで、はじめて実現できる。

そのため、それぞれがまちづくりの主体であることを認識するとともに、自らの役割を踏まえながら、まちづくりの目標や進め方を共有しつつ、積極的に参加していく必要がある。

#### ①市民の役割

- ・市民一人ひとりがまちづくりの主役となり、都市計画・まちづくり活動等に積極的に参加する必要がある。
- ・まちづくりへの関心を高め、積極的に情報収集を行う等、まちづくりの目標や考え方を共有することも必要である。

#### ②自治会等のコミュニティ組織の役割

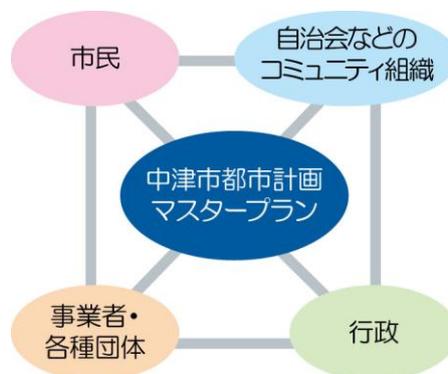
- ・自治会等のコミュニティ組織は、福祉や防災、防犯等地域が抱える課題を共有し、安全・安心なまちづくりを推進する必要がある。
- ・会員等の地域活動への積極的な参加を促すとともに、地域特有の伝統文化の継承等、世代間交流を進めながら、地域の活性化を図る必要がある。

#### ③事業者及び各種団体の役割

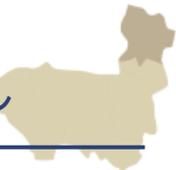
- ・まちづくりの目標や方向性を理解し、市民や行政等が協働で取り組むまちづくりに積極的に協力する必要がある。
- ・自らも産業発展や経済活動を行いながら、地域にふさわしいまちづくりの実現に努めることも必要である。

#### ④行政の役割

- ・市民の意向や意見を反映するとともに、まちづくりの目標や方針を明確に掲げながら、道路や公園、下水道等の公共施設の整備やあり方について市民参加のもとで検討するとともに、必要に応じて整備計画の策定や見直し等を行い、計画的な整備推進を図る。
- ・将来のまちづくりの担い手となる人財の育成手段として、NPO等各種団体に対して必要な支援等を行う。



▲協働まちづくりの体系



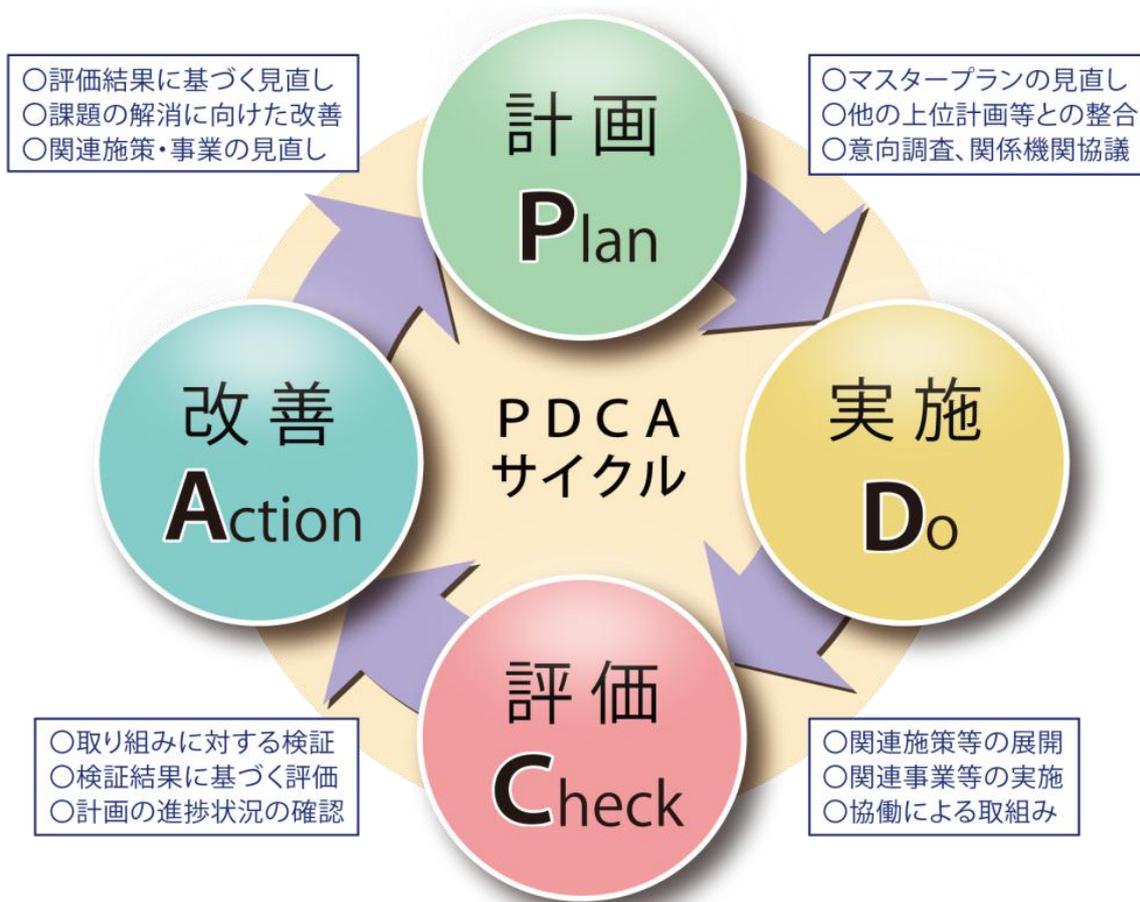
## 5-2 マスタープランの見直し

都市計画マスタープランで示した将来の都市像を実現していくためには、社会経済状況や上位計画等の動向を見ながら、定期的に計画内容を見直していくことが重要となる。

そこで、国や大分県、庁内関係部署との連携・協力を図りながら、継続的な進捗管理のもと、総合的なまちづくりを推進する。

### ○継続的な進捗管理

- ・都市計画マスタープランは、約20年後の都市のあるべき姿を目標にした長期的な構想であることから、刻々と変化していく社会経済状況に柔軟に対応し、計画的な運用を図っていくため、3年を目途としてPDCAサイクルによるマスタープランの進捗管理を行う。
- ・計画の進捗管理を行う中で、状況の変化等に伴い発生した課題を抽出し、改善に向けた対応策を検討する。
- ・さらに、課題に対する対応策の実施による効果を評価し、計画へのフィードバックを行うことで、継続的な改善や見直しにつなげていく。



▲継続的な見直しの体系